

## 限界集落 存続考える

浜松湖北高 地域学授業スタート  
佐久間分校

浜松市天竜区佐久間町の県立浜松湖北高佐久間分校はこのほど、静岡文化芸術大文化政策学科の船戸修一准教授を講師に招いた本年度の地域学の授業をスタートさせた。11月

までの計6回の授業で、同校地域総合類型の2年生12人が中山間地域の現状に理解を深める。

初回は、限界集落の存続について考えた。船戸准教授は、高齢化率や集落の人口だけでなく、町を出た子どもや孫世代の居住地はどこか、どれほどの頻度で帰郷し支援を行っているかなども存続を考える上で重要な要素と指摘した。「過疎化の問題は地域に住み続けたいという人の意欲が奪われること。人が減



佐久間町の現状や課題について学ぶ生徒ら  
＝浜松市天竜区の県立浜松湖北高佐久間分校

る中でどんな夢を描けるかが鍵」と伝えた。地域学は2017年度から同校が導入している独自の授業。地域課題に生徒が向き合う機会を設け、将来の町の発展に貢献できる人材の育成につなげる。